

子どもたちによりよい教育環境を用意することは、大人の責任です！ 子どもの頃、見たり聞いたり体験したことが、原風景として刻まれるのです！



■ウサギ夫婦に新居が完成しました！■

ハクとユキのウサギ夫婦には、新居が必要です。ウサギは普通、穴や暗い箱の中で子を産み、育てます。人に見られたり、触れられたりすると、育児放棄してしまいます。そこで、穴をイメージした新居を子どもたちも手伝って、作り上げました。今は赤ちゃんの誕生を待つばかりとなりました。

■鶏やカエルの子が次々と誕生！■

学校には、いろいろな生命の営みがあふれています。この学校環境は、教育環境そのものです。生き物とのふれあいは意図しなければ、そのままです。子ども時代にふれあって欲しい自然をできる限り身近な学校に用意してきました。学校はまさに学ぶ場所なのです。



■日本人学校特産のバナナを食す！■

9月27日(火)の昼食時に、校庭に実り、黄色く熟れたバナナをみんなで食べました。その甘いこと、その美味なこと…この味はカラカス日本人学校特産です。この味は忘れられない味です。



■こんなに青い空の下でクラブ活動！■

カラカスの気候は世界一です。カラカスの青空の青さも格別です。そんな最高の条件の中で、のびのびと大きなグラウンドでクラブ活動(今はグラウンドゴルフ)にいい汗をかいています。最高の気分！



カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その129)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 24

今回のテーマは、日本人学校卒業生のその後です。実は、アビラNO. 47で長文の作文を掲載した後、その本人から連絡をいただきました。今、大学生として将来の夢に向かって頑張っているそうです。そこで、この40年間に卒業していった児童生徒の進路について調べてみました。

小学部卒業生は、40年間で188名にのぼります。そのうち、カラカス日本人学校中学部に進学した児童は、160名、日本国内中学校が20名、カラカス市内のインターナショナルスクール6名、不明2名となっています。中学部卒業生は、40年間で110名にのぼります。そのうち、一番多いのが日本国内高等学校57名、次がカラカス市内のインターナショナルスクール49名、カラカス市内の現地校4名となっています。



昨年、創立40周年記念誌作成にあたり、多くの卒業生、途中転出生と連絡をとりあうことができました。その誰もが口を揃えて言うのが、カラカス日本人学校で学んだ経験が自分の人生の「はじまり」であるということです。小鳥が巣立ったように、日本人学校を巣立っていった子どもたちは、選んだ道、歩いた道こそ違っていますが、それぞれ立派な社会人として巣立っていることを感じました。大変嬉しく、誇らしいことです。(写真：1975年当時の卒業写真)